雇用促進事業団職業研究所編

『日本人の職業経歴と職業観』

至誠堂，東京，昭和54年11月，438＋viiiページ

本書は，職業研究所が3回にわたって実施した職業生活に関する3種のサンプル調査の分析報告である．調査は，(1) 全国の20歳以上70歳未満の男子を対象とした「職業移動全国調査」，(2) 首都圏の20歳以上60歳未満の女子を対象とした「職業移動調査」，および(3) 全国の20歳以上の男女を母集団とした「ライフ・サイクルと職業生活に関する意識調査」の3種で，昭和48年から51年にかけて詳細な面接調査が行われた．その結果を本書は，

第Ⅰ部　男性の職業経歴と職業観
第Ⅱ部　女性の職業経歴と職業観
第Ⅲ部　ライフ・サイクルと職業観

としてまとめている．

第Ⅰ部の男性の職業経歴については，調査対象者が幅広い年齢層にまたがっており，これらの人々の職業経歴は非常に長期にわたる期間が含まれることになるために，その職業経歴の形成ないし展開の過程には，戦前戦後の複雑な社会的経済的背景が大きく影響している．本書はこれらの多岐にわたる対象者を5つの出生コーホート（戦前世代，戦中世代，戦後復興期世代，高度成長前期世代，高度成長後期世代）にわけて，それぞれのコーホートの職業生活の展開を，職業経歴と生活歴との関連において把握しようとしている．そしてこの職業経歴の把握のために，本書は，「転職」あるいは「職業移動」を重要な分析概念として設定し，この「職業移動」を経とし，「職業的ライフ・ステージ」を緯として，各コーホートの職業経歴を分析している．その結果，職業経歴の形成ないし展開過程に多くの影響を与えた背景は，コーホートによって大きく異なっているにもかかわらず，各コーホートの職業経歴には現象的には著しい類似性が認められること，職業移動において年齢がきわめて重要な役割を果たしていること，特定の年齢で雇用者から自営業主に移動する労働力の流れが常に存在し，それぞれのコーホートのある時点で，自営業の再生産が着実に行われていること，意識面からは自営業志向が強いこと，日本の閉鎖的雇用制度は一つの社会的規範としては存在するが，職業移動の頻度からみて，それは一部のものに過ぎないことなどを立証した．

女性の職業経歴の分析では，女子の職業活動の特殊性から，男性とは異なった分析視点が必要であり，単に年齢別世代別の考察では不充分で，そこにライフ・サイクルとの関連という視点を導入することが不可欠であることを強調している．この観点から，女子のライフ・サイクルをいくつかのステージに分割し，それぞれのステージにおける職業活動によって6つの職歴タイプが設定されている．この職歴タイプを年齢別に分析することによって，若いコーホートほどその職業活動とライフ・ステージとの結びつきが強まっており，家庭や家族状況の変化，労働市場の動向などがその職業活動に直接的な影響を与えるようになってきていることが明らかにされた．このように女子のライフ・ステージと職業活動との関連を類型化し，職歴タイプ間の移動の関係と方向を明らかにすることができれば，女子の職業活動の変化の方向を予測するために貴重な資料となるものと思われる．

われわれは各種の統計資料から職業行動に関する多くの情報を与えられている．しかしこれは，個別の職歴の積み重ねとして得られる個々の職業行動の総量とは一致しないことはいうまでもない．労働市場のメカニズムや就業構造の変化は両者が相まって明らかにされるべきものであろう．

本書が意図した職業行動における動態的な資料の積みあげと類型化は，この種の調査としては異例の全国標本を抽出した労多い作業によって所期の目的を達したものとして高く評価されるべきであろう．この上あえて注文を加えるとすれば，各々のライフ・ステージの基本的な枠組を構成する各コーホートの人口学的背景の把握にいまひとつ工夫の余地があるのではないかと思われるのである．この課題は，特に女子の複雑な職業活動の分析に新しい展開をもたらすのではないかと考えられる．

（中野英子）